

地理歴史(日本史) 解答と解説

一般選抜〈前期 3 教科型〉

解説

傾向

本年度も、2月1～3日の前期入試科目として、大問6つ、合計50問のマークシート形式、試験時間80分で出題した。例年同様、大問構成は、テーマ史1問、古代・中世・近世・近代・近現代各1問となっている。

政治史だけでなく、文化史や宗教史も問う網羅的な構成をとる。特に地図問題・史料問題がちりばめられており、史料問題は内容の読解が求められる点に特色がある。教科書を踏まえた問題だが、脚注や図表からの出題もみられる。空欄補充(正答選択)以外に、内容の正誤問題・年代並べ替え問題も交えることで、基礎力を問うことを基本としつつ、共通テストを意識した問題構成となっている点に留意してもらいたい。言い換えると、あまりに細かい知識を問うよりも、正確な読解や歴史の推移への理解力が身につけているかを問うことに重きを置いている。

ただ共通テストのあり方がうまく定着していない現状を再確認し、昨年度に比べて、いわゆる暗記問題の比率を高め、バランス調整を図った。平均点はおよそ60点前後に収まっているが、特に1日目の問題について、高得点者の数が予想より少ない結果となった。

来年度は、この点を考慮し、試験時間を90分に延ばすことで考える時間を増やすとともに、問題構成比率のさらなる調整を図る予定である。

対策

あくまで出題内容は教科書からであり、教科書に沿った復習を重ねることが第一だが、地図・史料問題で用いられているものには、教科書未掲載のものも含まれる。特にそこから、歴史的な流れを理解しているか、書き下しにした史料(古文書・歴史書や日記、エッセイ)から、必要な情報を読み取れるかを問う問題が出されている点、注意が必要である。

こうした史料問題・地図問題をはじめ、理解力を問うた問題の正答率はばらつきが大きかった。特に、地図問題や、文化史・美術史系の問題に取りこぼしが目立つのは、例年通りといえる。ただ文化史・美術史には、正答率が一桁のものもあり、出題側として反省点であった。

第1問(テーマ史)の問8は、商場知行制から場所請負制への変遷を逆に捉えた誤答が目立った。第3問(中世史)の問1も、寿永二年十月宣旨が原因で、源義仲が後白

河上皇を幽閉し、頼朝の派遣した軍勢に滅ぼされたという流れを逆に理解した誤答が多かった。源義仲の本拠である木曾が、頼朝に支配が認められた東山道に含まれている点が問題となり、反発を買った経緯を理解しておきたい。史料問題である問2の文章Xは、ほぼ史料の直訳を載せたものだが、誤文とする誤答が目立った。深読みを誘ってしまったのかもしれない。同じく史料問題の問8はやや難解であると承知して出題したものの、蕨を2月から5月まで掘って食べた後、大麦は豊作だったが「春の生活困窮が続いたので」、大麦の値段も高かったという文章構成になっている。したがって、麦の収穫時期は夏となる。

第4問(近世史)は出題意図に反して、正答率が悪かった。問2の寺内町は、浄土真宗本願寺派が中心で、比叡山延暦寺の麓に位置する坂本が誤り(正答)となる。戦国期の比叡山は、そもそも坂本に拠点を置いていた。堺の商人を扱った問3は、島井宗室のみが博多出身なので誤り(正答)だが、小西行長の父小西隆佐が見慣れずそちらを選ぶ人が目立ったようだ。問4の正答は江戸幕府による大坂城代設置だが、意外に誤答が目立った。目立った誤答は豊臣秀吉の本拠だが、併記したうち名護屋城は、朝鮮出兵時の一時的な拠点であって、秀吉の本拠とはいえない。問5は著しく正答率が悪かったが、江戸は「上方」ではないし、近世の五街道に含まれるのは「東山道」ではなく、「中山道」である。

第5問・第6問(近現代史)は、文化史・地図問題以外は、概ね平均以上の正答がみられた。ただ、北京と南京の場所を誤った解答は残念であった。

2日目・3日目は、例年通りオーソドックスな問題が多く、全体に正答率が良かった。

2日目第3問(中世史)問8の永享の乱・明徳の乱と関東管領上杉氏の関係を問うた問題は、過去問でも類似問題が見られたものだが、やや誤答が目立った。

3日目第3問(中世史)問1の並べ替え問題は、想定よりも正答率が低かった。僧兵の強訴に悩まされたのは白河上皇であることは著名だし、「御家人」とあれば基本的に鎌倉時代を指すだろう。一向一揆の発生は戦国時代の話だから、キーワードで並べ替えが出来たはずである。続く問2は、Xを正しい文章とする誤答が目立ったが、安徳天皇と高倉天皇の親子関係が逆になっている。

暗記だけでは解けない問題が含まれると述べたが、個々

の問題傾向に変わりはない。年代並べ替え問題は、従来から年号の単純な暗記を求めているわけではなく、歴史の流れを読み取れるかを問う問題を出してきたつもりである。大学共通テストを念頭に置き、歴史上の出来事の関連性を考える力を養ってもらいたい。

最後に、本学では毎年近現代史からの出題がみられ、戦後史も対象であること、日本史に関わる海外情勢についても出題されることは、本年度の問題からも明らかであると思う。歴史総合を出題範囲に含めたが、もともと日本と関

わる海外情勢も、教科書の範囲で出題してきた。この点は今後も変わりはないが、日本とまったく無関係の海外情勢を出すことは想定していない。

また先にも述べたように、もう少し問題難易度や構成の調整を図る予定である。同時に、試験時間を90分に延長することで、余裕をもって問題に取り組んでもらいたいと考えている。いずれにせよ、自分の用いた教科書を丁寧に復習するだけでなく、『日本史用語集』などを活用しての対策が望ましい。

解答

環境学部：全学科
メディア情報学部：社会メディア学科
デザイン・データ科学部：デザイン・データ科学科
都市生活学部：都市生活学科

[令和7年2月1日(土)実施]

第1問

51. ② 52. ② 53. ① 54. ③ 55. ④ 56. ①
 57. ② 58. ③ 59. ⑤

第2問

60. ④ 61. ③ 62. ③ 63. ④ 64. ① 65. ②
 66. ② 67. ①

第3問

68. ④ 69. ② 70. ④ 71. ② 72. ③ 73. ④
 74. ② 75. ①

第4問

76. ④ 77. ② 78. ④ 79. ③ 80. ④ 81. ③
 82. ① 83. ①

第5問

84. ② 85. ③ 86. ④ 87. ④ 88. ④ 89. ③
 90. ⑥ 91. ③

第6問

92. ④ 93. ② 94. ④ 95. ③ 96. ① 97. ③
 98. ② 99. ③ 100. ④

[令和7年2月2日(日)実施]

第1問

51. ③ 52. ④ 53. ② 54. ① 55. ③ 56. ②
 57. ③ 58. ① 59. ③

第2問

60. ⑤ 61. ③ 62. ③ 63. ③ 64. ④ 65. ①
 66. ④ 67. ②

第3問

68. ④ 69. ② 70. ④ 71. ⑤ 72. ② 73. ②
 74. ④ 75. ①

第4問

76. ④ 77. ① 78. ④ 79. ③ 80. ④ 81. ③
 82. ① 83. ④

第5問

84. ② 85. ⑤ 86. ④ 87. ② 88. ④ 89. ③
 90. ④ 91. ③ 92. ④

第6問

93. ① 94. ① 95. ② 96. ③ 97. ③ 98. ⑤
 99. ② 100. ②

[令和7年2月3日(月)実施]

第1問

51. ③ 52. ② 53. ② 54. ④ 55. ② 56. ③
 57. ④ 58. ④ 59. ④

第2問

60. ② 61. ④ 62. ① 63. ④ 64. ④ 65. ①
 66. ② 67. ③

第3問

68. ⑤ 69. ④ 70. ③ 71. ① 72. ④ 73. ①
 74. ② 75. ①

第4問

76. ① 77. ④ 78. ③ 79. ② 80. ① 81. ②
 82. ① 83. ②

第5問

84. ④ 85. ① 86. ③ 87. ② 88. ④ 89. ④
 90. ④ 91. ④ 92. ②

第6問

93. ③ 94. ③ 95. ④ 96. ① 97. ④ 98. ②
 99. ① 100. ④